



緑の屋根



伊勢崎市立宮郷第二小学校 学校通信 令和3年度 第18号 令和3年12月23日(木)

各々が着実に成長できた、実りある2学期でした

コロナ禍による緊急事態宣言下で始まった2学期も、次第に感染状況も落ち着き、本日、終業式を迎えることができました。学期当初はコロナ対応に終始して、学校生活に見通しを持ちづらい日々を送っていましたが、10月以降は感染対策を講じながら様々な行事を実施することができるようになったことで慌ただしい日々を過ごし、終わってみると「あっという間」といった感も拭えません。

『ニューノーマル』指向が強まる社会風潮のなか、児童は様々なことに気を付けながら頑張って学校生活を送っていました。運動会・校外学習や旅行・学校公開・チャレンジ走・地域クリーン作戦等々の行事や毎日の生活を通して、努力することの尊さや友人と協力することの大切さなどを感じ、児童各々が人間的に成長したと思います。その早さや大きさに多少の差はあっても一人ひとり着実に伸びていると感じています。

さて、明日から始まる冬休みの生活については、学校から離れて家庭や地域での活動が中心となります。この機会にお願いしたいことは、年末年始の忙しい時期こそ、是非、お子さんに向けて『家族の一員としての役割を果たす』よう、ご家庭でお話しいただきたいと思っております。また、健康安全に留意した生活を送るようご指導をお願いしたいとも思っております。早寝・早起きなど規則正しい生活を送るとともに、特に『密になりやすい場所でのマスク着用』や『帰宅時の手洗い・うがいの励行』を実践するなど感染症未然防止に努め、体調管理に留意して元気に楽しく冬休みを送って欲しいと願っております。

最後になりましたが、2学期も1学期同様に、PTA本部役員や各種委員会委員、当番活動を担っていただいた保護者等の皆様には児童たちを見守り、支えていただき、大変有り難うございました。ご支援・ご協力いただいた多くの皆様のおかげで児童は安心安全な学校生活を送ることができ、充実した学習活動を行うことができました。心より感謝申し上げます。3学期もこれまで同様に、登下校や行事、学習活動の応援をよろしくお願いいたします。

3学期の始業式には、楽しい冬休みを送り、生き生きとした表情の児童の皆さんに会えることを楽しみにしています。よいお年をお迎えください。



宮中生から中学校生活について教えてもらいました

12月9日(木)の6校時に、宮郷中学校の生徒会本部役員9名が来校し、6年生へ中学校説明会を行ってくれました。宮中生からは「中学生になるための準備」「中学校と小学校の違い」「中学校での学習について」「部活動について」等、様々な視点から中学校生活について説明をしてくれました。通学カバンや補助バッグの実物提示やクイズ形式の説明など工夫しつつ、自分たちが経験してきたことを踏まえて具体的に『先輩から後輩へ』といった姿勢で分かりやすく伝えてくれましたので、聞いていた6年生も各々が自分事として上級学校進学を受けとめている様子が見られました。今回の説明会を経て、本校を卒業してからの次のステップに向けた心構えをもてたことと思います。



互いの存在を大切にしよう宮二小であることを願って…

12月10日の「世界人権デー」に合わせて、本校では12月6日(月)～10日(金)を人権週間として設定し、人権に関わる集中学習に取り組みました。その間、各児童は人権標語を作成したり人権意識を高めるビデオを視聴したりしました。また、12月9日には、スマイルタイムの時間にタブレットと電子黒板を活用したリモート形式の人権集会を開催しました。集会では、各学年1名ずつの代表児童による人権標語の発表(その後、代表児童の標語は児童玄関に掲示し、全児童が目にするようにしました。)や校長からの講話等を行い、自他の人権を尊重することの大切さをあらためて考える機会をもちました。

校長からの講話では、人権がかけがえのない大切なものであることを実感するとともに人権尊重を言葉だけに留まることなく日々の生活の中で実践に移して欲しいと願いを込めて、主に次のことを児童へ説いて自分のこととして受けとめられるよう話しました。

『世の中のと全ての人、かけがえのない特別な存在です。』

『自分も他人も同じです。互いの立場を慮り、各々の存在を大切にしましょう。』

『自分がしてもらって嬉しかったことは、積極的に他人へ行って下さい。』

『自分がされて嫌だったことは、絶対に他人へ行ってはいけません。』

リモート形式による集会でしたので、この話をしていた時の児童の様子を直接に窺うことはできませんでしたが、しかし、全員が真剣に聞いて、これまでのことを思い出したりこれからの行動を決意したりするなど自分のこととして深く受けとめてくれていたであろうことを信じています。宮二小児童には、学校生活のみならず、人として生きていく限り、人権尊重の精神をもち続け行動して欲しいと思っています。

【栗原 秀文 教頭先生から】

たくさんの方々に支えられています

先日、学校評議員の井野様よりご自身で作られた「60kgの米俵」を寄贈していただきました。中身はお米ではなく粳です。それでも結構重く、現在ふるさとコーナー(児童玄関北のスペース)に展示してあります。井野様曰く「実物を見る機会になれば」。また、先日宮崎区長様がペットボトルキャップとプルタブを届けにきてくださいました。大きな袋にいっぱいでした。宮崎様曰く「少しでも役に立てば」。

そんな出来事に以前勤めていた学校にあったオブジェを思い出しました。その学校の玄関には高さが2mほどの木のオブジェがあります。校舎を建て替える際伐採した正門脇に立っていた桜の木から作ったもので、今まで多くの児童生徒の登下校を見守ってきた木です。当時勤めていた美術の先生が切り倒されていた木を見て捨てるには惜しく作成したそうです。

愛校心という言葉があります。ある辞典では「自分の学校(母校)や自分と関連のある学校に愛着をもち、そのために尽力すること」と書かれています。前述の行為はこの心そのものでしょう。

子供、保護者、教職員、卒業生、そして地域の方々等。宮二小は多くの方々から愛されています。筆者の私もその仲間に加わってから9ヶ月が経ち、「宮二小は」から「うちの学校は」と知らず知らずのうちにその言葉が出るようになっていました。これからもどんどんその心を育んでいきたいと思えます。

